



まこと館だより



Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 うめ草③

～山田秀樹先生が繋ぐ 法人バザーとラオスの子供たち～

山田先生は立川相互病院副院長で、至誠ホームの和光診療所の嘱託医をお引き受けいただいています。大変温厚で朗らかで利用者の方々の人気は抜群のお医者様です。

さて、先生は昨年10月に開催された法人バザーに、奥様とご一緒に会場にお見えくださり、保育園の売り場と、児童事業本部とGAPの売り場でお買い上げいただきました。その折、先生から、「個人的な活動でラオスの子供たちへの支援活動をしているのだが、バザーで売れ残った子供衣料をラオス支援に利用できないか」とのご相談を頂きました。ご存知の通り、バザーの売れ残り衣料はその保存、扱いに困ることがあります。このお話し、法人の活動の趣旨的な意味からも大変喜ばしいことなのでご協力させていただきました。



山田秀樹先生ご夫妻と
保育園の園長たち

その後先生は年末、滞在20時間という弾丸ツアーでラオス・センウドウ村までその衣料をお届け下さいました。衣料639点とGAPさんからの提供の子供服です。総重量130キロ、手荷物で運ばれたそうです。現地でお正月のプレゼントとして村の子供たちから大変喜ばたのご報告を頂きました。先生からは沢山の土産と写真の載った報告書を頂きました。法人の活動をこのように拡げて下さった山田先生に感謝を申し上げ、皆様にご紹介します。

理事長 橋本正明

事業本部長メッセージ

年度末のあわただしい季節。保育事業本部各園では卒園と同時に新入園児を迎え、事業計画の課題に向かって心を一つにしていく時でもあります。今年は10年ぶりに保育所「保育指針」が改定、保育所が幼児教育施設として法的に明記され、新指針に基づく保育内容の見直しと改善に事業本部をあげて取り組んでいきます。さらにICT化による業務省力化効果と、働き方や体制調整等を通して業務改善に努め、事業本部として公休日増の改善に繋げ、目標の「ワーク・ファミリーバランス」をめざします。

この4月には「至誠ひの宿保育園」がスタートし、分園を含めて12施設となります。写真にある“大きな屋根のお家”はソーラーパネル、屋上緑化、スポーツ芝が映えています。スターティングメンバーも揃い、環境を整え開設準備も大詰めを迎えています。応援体制も整え、至誠理念を基に“ファミリア”的で地域の暖かな保育園をめざし、子育て支援・地域貢献に向け、地域の期待に応えてまいります。



都の現地検査当日
ひの宿保育園
平成30年2月19日

保育事業本部長 稲永勝行

事業本部情報

♥児童事業本部♥

ワークセンターまことくらぶが、法外の作業所として活動をはじめたのが平成10年。利用者8名のスタートでした。20年たった現在は立川市他近隣より20名の障害のある方が働く場として利用されています。

まことくらぶでは開設時より一日の初めに朝礼、終わりに終礼を利用者、職員共に参加し行っています。日直の進行で仕事の担当や来訪者等予定の確認を行います。連絡事項がある人は拳手をしそれぞれが発表をします。また昨年度からは自治会活動として「みんなのタイム」をはじめました。利用者の皆さんだけで進行し、話し合いを行って頂いています。

自らの考えを発信するという事は障害があってもなくても大切な権利であり、社会と繋がり生きていく手段となります。そしてその権利を擁護し啓発していく事を大切に今後事業運営をすすめていきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

(まことくらぶ 施設長 阿久津嘉代子)

♥保育事業本部♥

梅の開花が心を和ませてくれる季節になりました。世の中は、次世代育成に向けて平成24年度に「子ども・子育て支援法」が施行されて6年が経とうとしています。この間に保育園は大注目され続けている次第です。

その役割として9年前に世田谷区に成育しせい保育園が誕生しました。11時間開所、4時間延長保育、24時間型保育、一時保育、病児病後児保育と多種の事業を受けています。敷地内には成育医療研究センターがあり、預ける親御さんにとって安心です。

また都立の砧公園が日々の散歩コースになっていたり、恵まれた環境から恩恵をいただきながら生活しています。近隣の方からも保護者の信頼が厚いという話をよく耳にします。子ども達の笑顔や生き生きとした表情がそれを言わせているのでしょう。

未来を背負っている子どもたちが幸せな人になってほしいという願いで保育園の役割をしっかりと担っていかねばと法人の全保育園が日々保育に取り組んでいます。

(成育しせい保育園 園長浦井 みどり)

♥高齢事業本部至誠ホーム♥

至誠ホームスオミ(『スオミ』とはフィンランド語で“フィンランドの国”の意味)は、心身ともに自立した生活ができる60歳以上の方が入居できる定員50名のケアハウスです。スオミでは、「早めの住み替え」をコンセプトに「文化活動」「健康づくり活動」「社会参加」を3本の柱として充実した高齢期の生活作りを支援しています。平成15年に開設し15年近く経ちますが、セミナーへの参加、ボランティア活動、仕事をされる方、お弱くなった方は介護保険サービスを利用され、ご自分の生活をエンジョイされています。

至誠ホームオンニ(『オンニ』とはフィンランド語で“幸せ”の意味)は、今年の1月から日本建設(株)により本格的な工事が始まり、平成31年4月の開設を目指しています。立川市錦町二丁目の都有地をお借りして、特養(定員48名)、ショートステイ(定員5名)と、立川市では初めての看護小規模多機能居宅介護支援事業所(登録定員29名、通い18名、宿泊9名)の事業に取り組み、地域の皆さまの幸せづくりに貢献してまいります。

(至誠ホームスオミ園長・錦二丁目準備室室長 河合 晴夫)

本部事務局だより

今年度を振り返るとガバナンス(統治)という言葉をよく耳にしました。社会福祉の世界でも、法改正によりガバナンスの強化が求められました。しかし、どうもガバナンスという言葉が上滑りして、本来の意味の理解が浅い気がしてなりません。

実はガバナンスには「統制」と「意思決定の仕組み」という2つの側面があります。前者を簡単にいうと「決まったことはきちんとやる」あるいは「PDCAサイクルでやらせる」ということです。「P(計画)はおざなり、日々の業務に追われてD(実行)ばかり、C(点検)とA(改善)は事件が起こってからやる」「P(計画)は上司に言われたから立てたが現場はそれでは廻らない、と言って放置し、出来ない言い訳をする」、後者の典型が神戸製鋼の検査データの改ざん事件、日産自動車の無資格検査事件です。「忙しいからできなかった、人が足りないので法違反には目をつぶる」ではガバナンスが機能しているとは言えません。

本当にやるべきことができているのか、新社会福祉法で業務執行理事の業務報告を年4回理事会に報告する仕組みはこのために設けられているわけです。こう考えるとガバナンスの問題は身近なことなのです。続きは次回。

(野島忠幸)

<編集後>3月になり、節目の時期を迎えます。法人の新人研修には約80人の新規職員が参加予定となっています。法人事務局では決算に向けて、いよいよ本格始動です。皆さん、ご協力よろしくお願い致します。